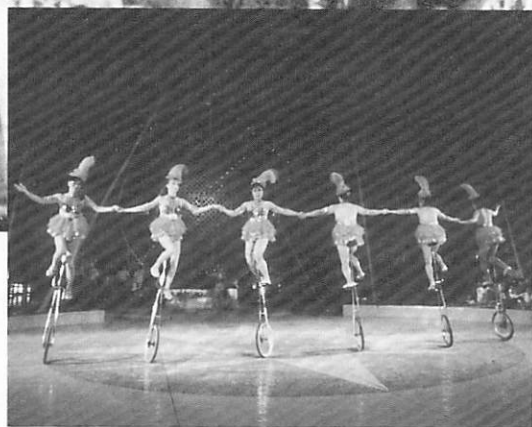


# 今世紀最初で最後？

猛獣ライガーも登場、木下大サーカスが京の街にやって来る！



公演日程は'93年1月1日～2月28日(毎週金曜休演。但し、1月1日、15日は開演)。入場料／(前売)大人2,200円、小人1,200円、(当日)大人2,400円、小人1,400円。お問い合わせ／075-811-6001

昨日まで何も無かった空地に、一夜明けると、いずこから湧き出たのか、軽快な音楽が流れ、色とりどりの旗がはたたくテントが建っていた。

サーカスが街にやってきた——その郷愁と興奮は、いくつになっても私たちの心を踊らせるものがある。

ユニークな猛獣ショーでおなじみの木下大サーカスが、京都に5年ぶりにやってくる。今回は、今まで醍醐、伏見といった市の中心地より外れた所とは趣を変え、JR二条駅横の空地にての興業だ。メインイベントは、ライオンとトラの混血獣・ライガーのショー。ライガーは現在、今回のショーに登場するものを含めて世界に3頭しかいない上、子孫が残せないという特質も持っているため、今回のショーでのお披露目が今世紀最初で最後になるかもしれないという。その他、トラ、ライオン、オオカミ、カナダグマなど、6、7種の猛獣を一堂に集め、ショーを披露するミラクル世界猛獣ショー、ダブル空中ブランコなど、あつと驚く奇技なショーの数々が予定されている。

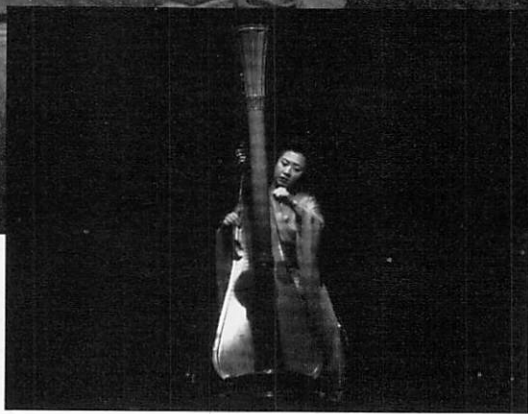
市内のめばしい空地にはビルが建ち、サーカス側では京都で興業地を探すのが年々困難になってきている折り、今回のような比較的繁華街の近くでの興業も今世紀中では最後になるかもしれないとのこと。サーカス未体験の人は、この機会に是非足を運んでみよう！

## 現代に甦る太夫の芸

チャリティーショーに懸ける  
花扇太夫の意気込み。



豪華な衣装と独特な足さばきの「太夫道中」で登場すると、会場は拍手喝采。今回の収益金は、京都新聞社会福祉事業団を通じて恵まれない子供たちに贈られた。



現在、京都で花街として全国的にメジャーな祇園、先斗町。それに比べて、島原は繁栄を極めた往時の面影は今も無く、太夫の数も6人のみといった現状で、島原の太夫の存在も、今や特別天然記念物のトキ並みに貴重視されている。

そんな太夫の伝統芸を現代に継承させようとする一人に、島原・輪違屋の花扇太夫がいる。彼女の呼びかけで、昨年より落語、日本舞踊、邦楽、クラシックなど、ジャンルを越えたアーティストとのジョイント、チャリティーショーを企画したりと、伝統芸の保存に精力的な活動を展開している。今年10月28日、伏見の呉竹文化センターにおいて「第二回 チャリティー花扇太夫の会」を開催。今回のショーではハープ奏者の小倉知香子さん、日本舞踊家の林啓二さん、落語家の桂文枝さんが参加し、会場の観客たちを、ひととき島原の郷で遊ぶ境地へと誘った。

「異なつた分野のアーティストと一緒」に舞台をやることで、ファン裾野を拡げ、太夫の伝統を今に伝えていきたい」と語る花扇太夫の言葉にもうかがえるとおり、今後より幅広い分野のアーティストとのジョイントを考えている模様。いつかは外国のアーティストなどと組んで、太夫の芸を海外までアピールしてほしいところだ。